

3 防災教育に関連する教科等の指導内容

〔● 学習指導要領の内容 ○ 学習指導要領解説の内容 ・ 防災教育のための参考資料（文科省）の内容〕

小学校 低学年

生活科

- 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。〔(1) 学校と生活〕

○ 安全を守っている施設や人々には、「子ども110番の家」や「登下校を見守る地域ボランティアの人」などが想定できる。なお、安全については、自然災害、交通災害、人的災害の3つの災害に対する安全確保に配慮する必要がある。

- 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。〔(3) 地域と生活〕

○ 安全に生活するとは、児童自身が事故やけがなどがなく安全に生活できると同時に、安全で安心な場所としての地域の一員になることでもある。だからこそ安全に気を付けて、遊んだり場所や物を使ったり人々と接したりすることなどが必要となる。ここでは、地域の人々や場所と実際に関わることを通して、より安全な遊び方や場所・物の使い方、人々との接し方を児童自身が身に付けるようにしていくことが望まれる。「今日は雨が降っていて滑りやすいから、池のそばには行かないようにしましょう」「困ったことがあったときには、あの家や店の人に相談しよう」など、児童がその場の状況を捉え、危険を予測して行動できるようにすることが大切である。

道徳

- 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
- 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。

学級活動

- 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
 - ・ 火災での火や煙の回り方、地震での物の落下や転倒、風水害での洪水等の危険について、授業中や登下校など様々な場面を取り上げる。

学校行事

- 健康安全・体育的行事
 - ・ 避難訓練において、災害に応じた行動の仕方を身に付け、安全に避難できるようにする。

小学校 中学年

社会科

- 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

○ 例えば、地域の消防署を見学し、そこにある様々な施設・設備を観察したり、そこで働く人々から聞き取り調査を行ったりして、災害や事故防止のための日常の取組、緊急事態に対する備え、災害や事故発生時の組織的な対処などについて調べることが考えられる。また、消火栓やガードレール、水防倉庫、飲料水や食料の備蓄倉庫、緊急避難場所などの施設・設備の働きなどを調査し、地域における日ごろの備えを具体的に調べることも考えられる。

道徳

- 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
- 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。

学級活動

- 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
 - ・ 火災の原因と危険、地震の起こり方や危険及び風水害等の危険について、学校周辺や地域の特性、実態を踏まえて取り上げ、安全に行動する態度を育てる。

学校行事

- 健康安全・体育的行事
 - ・ 避難訓練において、様々な自然災害時の危険と災害時の避難の方法について理解し、安全に行動できるようにする。

小学校 高学年

社会科

- 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

- 「自然災害の防止」を調べるとは、自然災害の防止と国民生活とのかかわりを取り上げ、我が国の国土では、地震や津波、風水害、土砂災害、雪害などの様々な自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や県（都、道、府）などが様々な対策や事業を進めていることなどを調べることである。

自然災害の防止と国民生活とのかかわりについては、地震や津波、火山活動、台風や長雨による水害や土砂崩れ、雪害などの被害の様子、国や県などが進めてきた砂防ダムや堤防などの整備、ハザードマップの作成などの対策や事業を取り上げることが考えられる。

理科

- 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化との関係についての考えをもつことができるようにする。〔第5学年 B 生命・地球 (3) 流水の動き〕

- 生活との関連としては、長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害などを取り上げることが考えられる。

- 土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。〔第6学年 B 生命・地球 (4) 土のつくりと変化〕

ウ 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。

- 土地は流れる水の動きだけでなく、火山の噴火や地震によっても変化する。火山の活動がみられる地域では、火山の噴火によって溶岩が流れ出したり、火山灰が吹き出したりして、そのまわりの土地の様子が大きく変化することがある。また、大きな地震によって、土地に地割れが起きたり、断層が現れたり、崖が崩れたりする。その結果、土地の様子が大きく変化することがある。ここでは、自然災害と関連付けながら、火山の活動や地震によって土地が変化した様子を観察したり、コンピュータシミュレーションや映像、図書などの資料を基に調べたりして、過去に起こった火山の活動や大きな地震によって土地が変化したことを推論するとともに、将来にも起こる可能性を考え、土地が変化することをとらえるようにする。

体育科

- けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。〔第5学年 (2)けがの防止〕
 - ア 交通事故、学校生活の事故などによるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや環境を安全に整えることが必要であること。
 - イ けがをしたときなどは、速やかに手当をする必要があること。また、簡単な手当ができること。

道徳

- 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
- 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。

学級活動

- 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
 - ・ 災害時に自分自身が安全に避難するとともに、下級生の安全に気を配ったり、初期消火や大人への通報の仕方など、二次災害を防ぐ態度や行動の仕方について取り上げる。また、止血などの簡単な応急手当や家庭での災害への日常の備えについて理解できるようにする。

学校行事

- 健康安全・体育的行事
 - ・ 避難訓練において、災害の種類程度等に応じた安全な避難行動ができるとともに、通報や初期消火など二次災害の防止などについて体験的に理解できるようにする。

中学校

社会

- 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。〔地理的分野 (2) 日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色 (ア) 自然環境〕
 - 我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への努力を取り上げることで、日本全体の視野から日本の自然環境を大きくとらえることを意味している。
- 地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などに関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業と深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。〔地理的分野 (2) 日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (ア) 自然環境を中核とした考察〕
 - 地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、自然環境が人々の生活や産業などの人々の営みと深い関係をもっていることや、様々な自然災害に対する防災対策が必要であることなどを踏まえて考察することが必要である。

理科

- 大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深める。〔第2分野 (2) 大地の成り立ちと変化〕

○ ここでは、火山や地震について、日本付近のプレートの動きなど地球内部の働きと関連付けてとらえさせるとともに、野外観察などを行い、その観察記録を基に、地層の重なりや広がりについての規則性や過去の様子を考察させ、大地の成り立ちと変化についての認識を深めることが主なねらいである。

その際、地震や火山活動についての過去の体験や知識、災害に対する防災や減災など日常生活や社会との関連に触れながら学習を行うとよい。

- 自然がもたらす恵みと災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。〔第2分野 (7) 自然と人間〕

○ ここでは、自然がもたらす様々な恵みや災害を調べ、自然の変化の特徴を理解し、自然を多面的、総合的にとらえ、自然と人間のかかわり方について考察させることがねらいである。

その際、自然から受ける様々な恵みと地域の自然災害や地球規模の自然災害の様子を調べさせるとともに、広く情報を収集して様々な視点から考察させ、自然と人間のかかわり方について適切に判断する能力や態度を身に付けさせることが大切である。

保健体育科

- 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかかわって発生すること。〔保健分野 (3) 傷害の防止 ア 交通安全や自然災害などによる傷害の発生要因〕

○ 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互のかかわりによって発生すること、人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。

- 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。〔保健分野 (3) 傷害の防止 ウ 自然災害による傷害の防止〕

○ 自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること。また、地震に伴って、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などによる二次災害によっても生じること理解できるようにする。

自然災害による傷害が災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることから、その防止には、日ごろから災害時の安全の確保に備えておくこと、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、冷静・迅速・安全に行動すること、事前の情報やテレビ、ラジオ等による災害情報を把握する必要があることを理解できるようにする。

なお、地域の実情に応じて気象災害などを適宜取り上げることにも配慮するものとする。

- 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生法等があること。〔保健分野 (3) 傷害の防止 エ 応急手当〕

道徳

- 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
- 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

学級活動

- 心身の健康や安全に関すること。
 - ・ 災害時の自分自身の安全に加えて、災害時の被害者の救出や地震後の火災発生防止など二次災害を防ぎ、家庭や地域の人々の安全を守るために必要な事柄を取り上げ、理解できるようにする。また、家庭での災害への日常の備えにあたって、積極的な役割が果たせるようにする。

生徒会活動

- ボランティア活動などの社会参加
 - ・ 被災地の中学校への励ましのメッセージや募金活動など、生徒の創意を生かした自発的、自治的な活動を推進する。

学校行事

- 健康安全・体育的行事
 - ・ 地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施や地域と一体となった防災訓練の実施等により、進んで防災対応能力を身に付けようとする態度を育てる。
- 旅行・集団宿泊的行事
 - ・ キャンプ等の野外活動において、野外炊事、火おこし、飲料水の確保などを体験する機会を設け、サバイバルスキルを身に付けることができるようにする。また、宿泊施設などの防災・避難の仕方についても理解を深める。

高等学校

公民科

- 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間のかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。〔倫理 (3) 現代と倫理 ア現代に生きる人間の倫理〕
 - ・ 被災した生徒、ボランティア活動に参加した生徒の体験作文等多様な資料を活用する。

理科

- 火山活動と地震の発生の仕組みについて理解すること。〔地学基礎 (2) 変動する地球 ア 活動する地球 (1) 火山活動と地震〕
 - ここでは、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させることがねらいである。「地震の仕組み」については、海溝付近の地震の発生の仕組みを中心に扱う。その際、内陸部の活断層による地震との違いを取り上げることが考えられる。
- 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察すること。〔地学基礎 (2) 変動する地球 エ 地球の環境 (1) 日本の自然環境〕
 - ここでは、日本における自然環境が人間生活と深くかかわっていることを考察させることがねらいである。自然災害の例としては、気象では台風や豪雨など、地震では地震動や津波など、火山活動では降灰や火砕流などを扱うことが考えられる。また、自然災害の予測や防災については、地域の実例について触れ、その中で地域のハザードマップなどを活用することが考えられる。
- 地震波の伝わり方に基づいて地球内部の構造を理解すること。〔地学 (1) 地球の概観 イ 地球の内部 (ア) 地球の内部構造〕
 - ここでは、近地震や遠地震の走時曲線に基づいて地球の内部構造を理解させることがねらいである。そのため、走時曲線の分析から地球内部の地震波速度の分布に大きな変化が見いだせること及び地震波が伝わらない部分があることから推定される地球内部の構造を扱う。また、マントル内の地震波トモグラフィーから、プルームの存在が明らかになったことに触れる。
- プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて理解

すること。〔地学 (2) 地球の活動と歴史 ア地球の活動 (4) 地震と地殻変動〕

- ここでは、地震分布とプレートの関係や日本列島付近の地震の特徴を理解させることがねらいである。そのため、世界の震源分布の特徴をプレート境界の違いに関連付けて扱う。また、例えば、日本列島付近の深発地震面や主な活断層の分布を取り上げ、日本列島付近におけるプレート間地震やプレート内地震の特徴も扱う。さらに、断層運動によって形成される山地や平野などの地形についても触れる。

保健体育科

- 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生法等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。〔科目保健 (1) 現代社会と健康 オ 応急手当〕

家庭科

- 高齢者の心身の特徴や高齢化社会の現状及び福祉などについて理解させ、高齢者の生活の課題や家族、地域及び社会の果たす役割について認識させるとともに、高齢者の自立生活を支えるための支援の方法や高齢者とかかわることの重要性について考えさせる。〔家庭総合 (2) 子どもや高齢者とかかわりと福祉 イ 高齢者の生活と福祉〕
 - ・ 地域の高齢者の生活と福祉に関する理解を通して、災害時にも対応できる高齢者の支援の在り方を認識するとともに、積極的な役割が果たせるようにする。
 - ・ 学校家庭クラブ活動として、ボランティア活動に参加できるように配慮する。

ホームルーム活動

- 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立 〔(2) 適応と成長及び健康安全〕
 - 自ら安全に配慮するとともに、危険を予測できる力や危険を回避し的確に行動できる力を高めていくよう日ごろからの注意の喚起や指導が必要である。また、日ごろの備えを含め自然災害等に対する心構えや適切な行動がとれる力を育てることも大切である。さらに、高校生としての自覚に立って自己の安全を確保するのみならず、身の回りの人の安全を確保する態度をはぐくむことが重要である。

生徒会活動

- ボランティア活動などの社会参加
 - ・ 被災地の高等学校や高齢者などへの励ましのメッセージや募金活動など、生徒の創意を生かした自発的、自治的な活動を推進する。

学校行事

- 健康安全・体育的行事
 - ・ 地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施や地域と一体となった防災訓練の実施等により、進んで防災対応能力を身に付けようとする態度を育てる。
- 旅行・集団宿泊的行事
 - ・ キャンプ等の野外活動において、野外炊事、火おこし、飲料水の確保などを体験する機会を設け、サバイバルスキルを身に付けることができるようにする。また、宿泊施設などの防災・避難の仕方についても理解を深める。